

## 令和7年度 清水海岸侵食対策検討委員会（令和8年3月12日）

### 発言概要 要約版

（○：委員、●：事務局）

#### 議事（1）令和7年度 事業実施状況の報告

- 資料1 p.4：1号ヘッドランドの上手に養浜「実施中 2.4万m<sup>3</sup>」の養浜とあるが、サンドボディが北の方へ進んできているので、これは徐々にやめてよい。いつもここに入れなければならぬと固定的に考えるのはやめた方がよい。現在、1号の先に右の方から大体3万5000m<sup>3</sup>/年ほど来ているので、徐々に1号ヘッドランド上手への養浜は減らしていった方がよいと思う。
- 資料1 p.14：「汀線が大きく前進」と書いてあるが、大きく前進しているということは土砂が来ているということなので、そこは徐々に養浜を減らしてもよいと思う。
- 資料1 p.22：先ほど2号新堤の工事状況を視察してきた。図中のNo.27の間に「2号新堤（南）整備中」とあり、その後ろの汀線を見ると、2023年から2025年にかけて後退しているが、実際見に行くと局所的に前進していた。去年の11月まではそうだったということで図は間違いではないが、2号新堤（南）が出来上がると同時にその後ろ側には砂が堆積するので、今まで減っていた場所に堆積するところを見ておいてもらいたい。
- 資料1 p.26：事務局の説明で「清水灯台の前はやや侵食傾向」とあったが、「やや侵食傾向」ではなく、「激烈に侵食が進んでいる」と思う。清水海岸全体で1番危ないのは清水灯台の目の前であり、過去5年間高波浪は来っていないが、今度来たらその部分の砂浜は全部消えることも起こりうる状態である。三保の灯台はとても重要な施設であるため、「やや侵食傾向」ではなく、「要注意」という表現に直してもらいたい。
- 資料1 p.30：1番下の欄に「サンドリサイクル浚渫を実施している清水灯台から旧飛行場の汀線は安定し」とあるが、全然安定していない。「水中部も維持されている」とあるが、この文章は「清水灯台から旧飛行場の間（27ページ図中）はとても危ないので今後要注意」とすべき。この場所は過去にも越波しており、今度高波が来たら以前のような越波では済まないため、見解を改めた方がよい。今日の現場と2月16日の現地の画像とを比較してみると、2月の時にあった砂浜がなくなっている。とても重要な場所であるため、そこが危ないということは県の努力が必要だと思う。
- 資料1 p.32：Aの領域の清水灯台の目の前が危険。砂をいくら取って入れても先の方へいってしまうので意味がないのではないかと指摘があり得るが、投入しなければ清水灯台がもたないということを伝えておくべきである。今こうなった以上、土砂を入れるしかないが、入れたからすぐに良くなるかというところではない。
- 三保海岸は、安倍川から流れてくる砂が波によって流れてくるというのが現状であるが、高波が近年来ていないので、砂が考えるほど来ていないのではと思う。羽衣の松の西側や4号消波堤の東側もえぐれてきているので、いち早く養浜をする必要があると思う。  
旧飛行場の前も、台風来襲時と比べると水面上の砂の高さが違う。サンドリサイクル浚渫で船が航行するにも困るぐらいの量を取っている。高い波が来ないので、本来なら飛行場の深いところから打ち上がるはずの砂がきていない。もう少し採取量を減らした方がよいのではないかと。

また、安倍川土砂の多少大きな粒径の養浜材をヘッドランド区間より東側に入れても漁業としては影響はしないため、高波の時に人や物が守られるように海側に汀線押し出す形の養浜の方がよいのではないかと思います。そういうところを変えていかないと大変なことになると思うので、検討していただけるとありがたい。

- 増・蛇塚は、大体3万m<sup>3</sup>から4万m<sup>3</sup>の土砂が離岸堤を埋め尽くしながら毎年続々と来ている。ただし先の方にはまだ到達していないので、土砂を注入するしかない。意見があったように、土砂を盛って台風備えてストックしておくだけでなく、汀線を前に押し出すことも考える必要がある。時間や費用との兼ね合いがあるが、砂が足りないのであれば一部を海側に押し出す必要がある。まともに海に出してしまい、今度台風が来た時にストックしている土砂がないというのは困るため限界はあるが、少し工夫の余地があるのではないかと思います。これは確かにそう思う。サンドリサイクルでとにかく掘るのではなく、今の話も加味してできるだけ現実に合うように柔軟性を持った計画にしてもらいたい。漁業者の皆さんは船に乗っていて海側からの視点も分かるわけで、いつもとは違う視点があって然るべきだと思う。

- 先程の土砂の移動として、北の方から南下してきたものがあるのではないかという話をされていたか。

- 北の方ではなく、安倍川の方から土砂は流れている。三保灯台から羽衣までの間の深い場所ほうねりの入り方が、ヘッドランド区間とは違うため、砂の流れも当然変わってくる。そのため、海から見ると潮の流れが早い時に東側から砂が取られているように見える。また、大きな波のときは、大体水深10mぐらいまでの砂が移動しており、飛行場のところに砂が打ち上がってくる。それが三保半島自体を興津側にむけて伸ばしている。

- 過去5年間台風が来ておらず、安倍川の河床が浅くなってきているとのことであれば、掘削自体は賛成である。ただし、安倍川の土砂を漂砂系外のコンクリートの骨材として使用する場合は、骨材の必要性は理解できるが、清水海岸に砂が来なくなることを意味する。サンドボディが進行しているから安全だろうということで、掘削量を10万m<sup>3</sup>からさらに5万m<sup>3</sup>増やすという計画も聞いている。慎重にやっていただかないと、高波が来た時に各構造物の下手が掘られてしまうと思う。また、せっかく砂浜が回復してきた増地区離岸堤と1号ヘッドランドの間の砂浜回復がどうなるのかが心配である。

## 議事（2）検討事項及び今後の予定

- 資料1 p. 37, 38：2号新堤の方に気が取られがちだが、全てのしわ寄せが4号消波堤の北側、清水灯台の前に来るため、注意しておいた方がよい。

## 議事（3）安倍川からの供給土砂による砂浜回復域の進行状況

- 資料2 1号ヘッドランド上手の砂浜回復が見込める箇所よりも、離岸堤型ヘッドランドの下手の砂浜が減っているところに養浜する方がよい。また、養浜を高く積むと反射波が生じる。養浜材は汀線より前面に出して海岸線を長くしておけば高波のときに効くと思うため、海岸線を人工的につくったほうがよいのではないか。
- 昔の海岸線はなだらかだったが、今は強い波が来ると波打ち際だけ砂が取られてしまう。少し

ずつでもなだらかになるような工夫をしていくことができればよいと思うが、どうか。

○人間の力では実現するのは難しいが、その後ろ側に人が住んでいるため、土砂の入れ方は考えていかなければならないと思う。

●養浜材の高さや幅、先ほどのストックヤードの話を総合的に考えて、柔軟性を持って色々と検討したい。住んでいる方もいるため、そこを最優先に考えたいと思っている。

●2号新堤（南）の背後の養浜盛土の歩留まりが高いため、周辺で砂浜が侵食された場合にはすぐに入れられる準備をしておきたい。国とも連携しながら、いざという時にすぐに対応できるような体制を整えたい。

○安倍川からの土砂供給がなくなっても侵食が全域ですぐに進むわけではないため、たとえ土砂供給がなくなり砂浜が減っていく際にも、体制を整える猶予はあると思う。ただし、局所的に砂浜幅が狭い箇所も多くあるため、全体的に俯瞰して考えるのは別に、ヘッドランドや消波堤の下手側の高波による短期侵食にも注意して対応していくことが大切だと思う。

○漁業者として、黒潮の流れが去年から変わったことと海水温が上がっていることを懸念している。沖から見ると離岸堤のブロックの先が割れているものもある。大きな波浪が来た際に不安である。また、令和元年に五中のあたりで越波したようなことが、他の地点でも生じないか心配である。

○黒潮の大蛇行が終わって、それ以前の状況に戻っているというが、その状況をどのように判断するのが難しい問題である。

○2号新堤（北）の計画地点背後の砂浜部には、2号消波堤を構成していたブロックが飛散していた。水中のブロックが転がっている場所に2号新堤（北）の杭打ちを行うと問題が出るため、2号新堤（北）の配置とブロックの散乱位置との関係を確認しておいてもらいたい。

○今年は2号新堤（南）の工事を行っていたため、2号消波堤下手の水中部の散乱ブロックを撤去できなかったと聞いている。工事が終われば来年度は撤去ができるのではないと思う。

○数年前の台風で三保園ホテルが浸水しており、南海トラフもいつ来てもおかしくない状況で危機意識をもっている。三保は最大の静岡平野の防波堤であるため、次に同じことが起きた時に少しでも被害を緩和できるような方策があってほしい。また、どうしても人工物を作ることが優先事項となってしまうと思うが、歴史ある素晴らしい風景が揃っている場所であることを分かっているしてもらいたい。総合的な計画とは別に、目の前のことを考え、出来ることをやっていたいかなければ間に合わない段階にきていると感じている。

#### 議事（4）安倍川総合土砂管理計画について

○河床高の変化に関する資料が出ているが、海岸側からすると河口からどれほどの土砂が供給されたかの結果が知りたい。

○どれだけの土砂が流れているかについては、現在モデルを組んでいる。量については、2ページの赤枠で囲っている数値を想定量としている。年間16.2万～38.8万m<sup>3</sup>を今後の目標量として考えている。

- 河口から海岸への流出土砂量については、難しいところだとは思いますが、海岸測量とのマッチングをよく図っていただきたい。
- 答え合わせは海岸だと思っている。川の出すデータを海岸にも反映させ、モデルの妥当性や整合性を図っていきたい。
  
- 資料4 p.7：河口部への置土について、海岸では年間で数万m<sup>3</sup>の土砂が動いているため、置土量が2000～3000m<sup>3</sup>程度だと海岸への効果がないので、何回も実施する工夫はできないか。予算が絡んでくるので何とも言えないが、置土するのであれば1万m<sup>3</sup>ほどは目標に掲げることはできないか。
- 個人的には置土量は多くしていきたいと考えるが、今年度すぐに実施するのは難しい。
  
- 資料4 p.2：赤枠内の河口からの流出土砂量の年間16.2万～38.8万m<sup>3</sup>の数値のばらつきのある原因は何か。
- 従年実施している掘削や砂利採取を行った場合と全く行わなかった場合の数値を、実績に基づいてそれぞれ出しているため、ばらつきが生まれている。
- 数値には洗流砂（海浜形成に寄与しない微細粒径の土砂）も含まれているか。海岸地形に寄与する量は半分くらいだと思った方がよいか。
- 具体的には分からないが、海岸に影響する粒径であると考えている。

以上